

平成25年度事業計画書

(平成25年9月1日から平成26年8月31日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

特定非営利活動法人フードバンク関西は、本年度、活動11年目を迎えます。2003年4月の活動開始以来、「食べ物を大切にし、お互い支え合う社会を築きたい」という活動趣旨が皆様の理解を得て、現在食品提供企業は約50社、受け取り団体は90か所余りを数え、本格的に「食のセーフティネット」事業にも取り組んでいます。これらは皆様からのご支援の賜と感謝し、さらに事業内容の充実を図る年度となるよう、ボランティア一同、心を合わせて努力したいと考えます。

I 余剰食品の受領と要支援生活者を支える非営利福祉団体への分配事業について

フードバンク関西は、昨年度に引き続き本年度も、食品関連企業から余剰食品を引き取り、要支援生活者の自立を支援する非営利福祉団体に、これらが無償で分配する事業を継続し、さらに発展させます。

「命の糧である食べ物を大切にしたい。」というフードバンク関西の活動趣旨を堅持し、まだ提供企業となっていない企業の皆様にも理解を求め、寄贈食品の確保に地道な努力を重ねていきたいと思えます。

特に本年度は、フードバンク事業に欠かせないお米の確保への努力を払うと共に、食品の種類が多様化を目指すべく、新規に参加して下さる企業の開拓に努めます。

II 「食のセーフティネット」への取り組み

一昨年度から仕組みが整い稼働している芦屋市、尼崎市、伊丹市地域では、さらにその充実を図ります。

前年度から市民への緊急食支援をすでに数回実施している西宮市とは、西宮市社会福祉協議会を窓口団体として、内容の検討を進め、本年度中にセーフティネットとしての仕組みを整え稼働させます。

神戸市との協議の開始も、早期に実現したいと考える事の一つです。

また、他のNPO法人等とも協働を図り、困難を抱える市民への生活相談・就労支援をする民間団体を窓口とする仕組み作りに努力します。

行事としては、「食のセーフティネット」事業の内容を、広く関係者に周知する勉強会を、平成26年当初に開催します。その中で、地域間の情報交換を行い、充実したセーフティネットの形を検討します。

将来的には、兵庫県内に行政と民間の「食のセーフティネット」を張り巡らし、「空腹なのに食べる物が無い」一時的に困窮状態に陥った個人を、市民が支え合う力のある地域となっていく事を目標に、取り組みます。

III 運営基盤強化のための取り組み

私達が抱える最大の課題は、日々拡大する活動に必要な運営資金を、継続的、安定的に確保するための方法論、仕組みの構築が未だ模索の段階にある事です。

本年度は、長期安定継続的な事業運営が出来るような基盤作りを目指します。

まず、ホームページの拡充や、他団体のイベントへの参加、共催等、意欲的に広報活動に取り組み、余剰食品を最も有効に活用する「食のセーフティネット」の仕組みや、要支援生活者への食支援の取り組みを、広く市民に知っていただく機会をたくさん作り、活動趣旨に賛同して下さる個人の賛助会員を増やします。

また、企業への活動紹介パンフレットの送付、企業訪問等の働きかけを積極的に行い、企業にも当法人の活動趣旨及び事業内容の周知を図り、さらに認定NPO法人である事を最大限に生かす形での食品提供と運営資金支援を呼びかけ、法人賛助会員としての参加を求めます。

また「食のセーフティネット」事業による行政との協働の実績を重ね、多くの市民から「セーフティネット」が地域に無くてはならないものと認知され、行政からの当法人への支援が当然の事となるよう、努力をします。

他のフードバンク団体とは、密接な情報交換や実質的な食品の交換等を含めた相互支援関係を作ります。

新たにフードバンク事業の開始を計画する団体には、出来る範囲で協力し、フードバンク事業の各地への拡大に貢献します。

今日まで事業を継続、拡大できた事は、この活動をたくさんの皆様が意義あるものと認めて、賛助会員の年会費を負担、あるいは寄付と言う形でのご支援をお寄せ下さった事によります。その信頼を励みにして、上記に掲げる広報活動の充実と強化に努力し、さらに広い分野を対象として支援者の獲得を図り、「皆様方からの支援によって事業を展開する、社会に無くてはならない活動を行うフードバンク関西」となる努力をします。

皆様方の力強いご支援をよろしくお願いします。